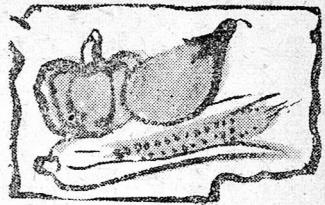


二、三毛作をねらつた

私の蔬菜栽培について



加藤幸作

狭い面積より多くの収量を得る方法として、私は多毛作を実行しています。都市近郊の農業または、自家菜園の狭い面積を高

度に利用するには園芸農業が有利だし、またそういう経営では、あまり広い面積では、手も廻らないし、また近郊では大面積を求め難いなどの理由もあり、どうしても集約化した経営となるので

す。二毛作や三毛作をするとなるといろいろの問題があるもので

性、輪作栽培、病虫害、販売計画、などを考慮に入れて

慎重に計画し実行してこそ、始めて成功するものです。

私の勞力と經營

私の労力は成人換算にして三人で、水田一町三反、畑八反を間作を含めると、一町五反くらいにして耕作しています。内訳は

耕馬一頭、繩頭二頭、豚六頭を飼養して堆肥は年産二万貫は堆積しています。労

他の、年間延べ三〇人くらいは雇傭して

労力の配分を図っています。特に作業が手遅れにならない中に、早や目に雇傭労力を入れるようにしております。

地力の維持増進

三毛作すれば、地力の減少が甚だしいので、私は野菜畑には毎年八〇〇貫の堆肥を施用しています。私の畑は七年前までは水田であったのを、六間間隔に暗渠排水を施工して畑にしたので、五年間は毎年反当たり千貫の堆肥を施用するとともに、その間に合計一トンの石灰を投入して、六年目には始めて良質のホーレン草が生産できるようになり、現在では堆肥だけで馬鈴薯が反当たり四〇俵くらいは容易に獲れるようになります。

トマト一反、胡瓜一反、茄子一反、ホーレン草三反、早生カボチャ三反、南瓜五畝、豆類一反、馬鈴薯一反、リンゴ一反、デントコーン一反、燕麦一反、生食用トーキビ五畝、その他一反となっています。家畜は

トマト一反、胡瓜一反、茄子一反、ホーレン草三反、早生カボチャ三反、南瓜五畝、豆類一反、馬鈴薯一反、リンゴ一反、デントコーン一反、燕麦一反、生食用トーキビ五畝、その他一反となっています。家畜はあると、私は信じて実行しています。



蔬菜類の土性に対する適應性

土性に適しない作物を無理して作るよりもよいが、老熟が早く病害に対する抵抗能力が弱く品質も粗雑であるが、粘質の土壤では老熟が晩く、病害の抵抗力も強く、品質も緻密であるといわれています。栽培環

境に適するように土地改良、品種の選定、栽培技術等について研究を続けております。

蔬菜の輪作

輪作栽培の利点は作物の種類によつて土壤から摂取する養分の、種類や量が異なるとの、各作物によつて根の働きに相違があるので、異なつた深さの養分を吸収する。まことに種々の土質と改善するといつわ

れています。茄子
科や豌豆を連作す
ればイヤ地病が起

きる。十字科の根
瘤病、瓜類の炭疽
病、ベト病、ウジ
類、夜盗虫などの
被害も輪作すること
によつて回避するこ
とができる。等の利益
が、私の畑では十
字科の作物は早生
カンランのみで、
これは根瘤病の発
生を回避するため
で、茄子科のトマ
ト、ナス、馬鈴薯
等は、四年目毎に作付して
います。茄子科
の連作は毎年二、三割の減収になるので、
私は特にこの点に注意しています。

等は、四年目毎に作付しています。茄子科の連作は毎年二、三割の減収になるので、私は特にこの点に注意しています。



第二作収穫中の臺高茄子 (8月15日)

育

育もまた良好なのでトマトやナスのその後の花芽の分化もよくなり、早期の出荷が可能になります。ナス、トマト、胡瓜の発芽適温、育苗適温、定植のできる限界温度などは第二表の通りといわれています。私は元苗は温室で育てますが、移植床は外の苗床を利用するので、場所は温室の南側で日当りも良く風当たりも少いが、私の床場は湿度であつたので六尺さきに暗渠排水を施した結果、排水も良くなり、地温も高くなつております。適度な温度肥沃な床土が大切です。

第一奏 私の二・三手作実施一覽表

第二表 ナス、トマト、キウリの各期別の適温

区別 種類	発 度数 日	芽 温 度。C	育 苗 日 数 日	移植 温 度。C	植 地 温 度。C
ナ	▲	23	27	60	20
	25	11	20	75	12
	30	8	23	60	12
トマト	▲	14	16	80	15
	25	10	16	60	10
	30	8	18	75	5
キウリ	▲	10	18	60	15
	25	6	11	75	5
	30	4	18	60	12

▲不良 ▲良

床土は肥えた土という以外に病害のないことも大切な条件となるので、私は前年の春より茄子科や十字科を作らない畑の土や水田の土を容積にして同量の堆肥と交互に堆積しながら下肥を加えて堆積しておき、秋の切り返しの時坪当りにして加里三〇匁と魚粉の粉末一〇〇匁を加えて越冬させるのです。よい床土とは悪い病害や害虫のないこと通気のよいことなども大切なことなので、これらの事柄を確実に守つてこそ、はじめて病害のない植生のみの少い花芽の分化のよい苗を移植時期に適応して育てることができるのです。私は育苗についても神経質だといわれるくらいに注意している。

定植並びに栽培

定植畑の肥料は、堆肥は前年の秋から春に鋤き込んでおきます。移植直前になると畑も乾燥に過ぎるようになるところへ堆肥を鋤き込んだのでは乾燥も一層甚だしくなり、苗の根付も悪くなることもあります。その他の肥料も移植前十日くらい前に施用しておかないとこれまた根付が悪くなるのです。私は後作の分の肥料も前作

の時に一度に施用しています。しかし移植する時はあまり風の強くない、天気のよい日を選んで移植を始めますが、あまり畑が乾燥に過ぎているときには、植える穴に過

するものです。

病蟲害

いま私の一番注意しているのは十字科の根瘤病で、一度この病気が発病すると、十字科のカントランや白菜、その他の菜類が一切作れなくなるからです。文献によると、

それは水ばかり入れたより乾燥を防いでくれるので、根付もよいようで、実行しています。私は毎年トマト、胡瓜の間作に早生カントランを植えています。早生カントランを植える畦は四尺にして、植えない畦は三尺で、カントランを植えてある畦は通路となるのです。(写真参照) 株間はトマトの二尺です。早生カントランは普通は極早生では二尺×二尺くらいで、玉の大きくなる早生は二尺二寸×二尺二寸くらいですが、トマト、胡瓜の場合では一尺六寸の株間に植えています。トマトの株間の一尺五寸は近植えであるので、九尺の手前



トマト福壽2号 (6月30日)

発病した畑に七年間十字科を作らず、その後に十字科を作つたら発病した、と発表されています。現在ではその防除法はないといわれています。しかし石灰の不足な畑には出やすいといわれてるので、私は畑に反当たり一トンの石灰を投入してあるのです。それでも私は十字科は早生カントランだけで自家用の菜類なら作付けしないようにしています。まだ発病を見ています。ひどく発病する時期は大体に七、八

月の温度の高い、雨降後に急速に日立つもので、この点早生カントランの作付是有利です。次に胡瓜の炭疽病で、これも一たび発病すると、五日おきに四斗×六斗式の少石灰ボルドー液を撒布しても防ぎ難いものであります。前年の成虫も移植の直後に食害をするが、それよりも六月の中旬ごろになると、玉の中に食い入つていて、なかなかか防除のでき難いもので、私は五月の中旬から一ヶ月間おきに、水三斗に砒酸鉛一二〇匁にリノールを加えて撒布しています。DDTの粉剤もよく効きますが薬代が高くなります。

トマトの枯病

も品種によつて相違があります。昨年の九月中旬には在来種は青い葉もない程でしたが、福寿二号種は同一の畑に比較栽培をしたのですが六段目の果が青色して、一段目に花が咲く程の元気な生育ぶりでした。茄子には立枯病があります。温床内において発生して本葉二三枚の頃に地際がクビレで枯死するのです。そのような苗を定植すると枯れるので、苗の時には見つかり次第に抜き取るのです。これは最初に高温多湿に育てた苗が、急激に地際が冷えて後に乾燥すると発生し易いといわれます。床土に病菌がある場合に多い無毒な床土を使用するかクロールビクリンで消毒すればよいといわれていますが、私は前年秋に石灰窒素を坪当り五〇匁くらいを床土に撒布して、よくまぜておいて春に使用していますが、大した発病はありません。書けば限りがない程ですが紙数に限りがあるので筆をおきます。何分にも経験の浅い私であるので、難しい理論的なことは私にはよく判らぬので、これらのことについては、専門の技術者の方よりきります。

(筆者)